

こどもの病気対策法①50

— 笑顔の子どもを育む地域となるために —

大分大学客員教授 是 松 聖 悟

私が津久見市を初めて訪れたのは小学生時代の社会見学で、みかん狩りをする私の写真が大分合同新聞に掲載されたのを覚えています。剣道の大会で訪れた海辺の日代小学校も忘れません。大分医科大学に進学してからは、毎年、医大祭のために津久見高校ボクシング部のリングを借りにうかがいました。小児科医となった後も、津久見中央病院に休日の当直医としてお伺いしていました。

2008年4月に大分大学地域医療・小児科分野教授を拝命してからは、津久見中央病院でのアレルギー外来診察に加え、津久見が「笑顔の子どもを育む地域」となるためのお手伝いをさせていただく機会を得ました。この市報の連載は同年8月から始まりましたが、150回に至ることは当初予測すらできませんでした。同時に95回もの小児科講演会で市民の方々にメッセージを発信させていただくことができたこと、小宅先生をはじめ、津久見中央病院に

大分大学から派遣されていた小児科医や、津久見の医療、保健、福祉、保育、教育、消防の多くの関係者のご協力の賜物です。

小児科医として取り組んだ「笑顔の子どもを育む地域」となるための方策の、いの一は「予防」でした。津久見市が、私達が作成した夜間や休日の急病の際にどう動くかのフローチャートを冊子にし、子どものあるご家庭に配布してくださったことは本場にありがたく、今でも全国各地での私の講演会で、素晴らしい取り組みとしてお話しさせていただいています。それと同時にどんなに早く病院を受診しても救えない命が多くあることをお伝えしました。それを回避する唯一の手段は予防接種です。津久見市はそれを理解してくださる、子どもに必要な予防接種の全てに公費補助をしてくださいました。そこまで子育て支援をしてくださる市は全国で数えても片手にさえ余ることを市民の方々は知っていただきたいと思います。

さらに、子どもの様々な個性を容認して、それぞれの長所伸ばしていくことも大切だとお伝えしてきました。優れた能力を持っている子どもにはそれなりに苦手分野があり、それがために「できない子」としての扱いを受けてしまう側面があります。苦手分野を克服しながら得意分野を伸ばせる津久見となるよう、関係者と知恵を出し合っていました。

さて、私ごと、4月より埼玉医科大学に小児科教授として着任することとなりました。津久見の皆様にあえなくなるのは残念です。津久見では、みかんもマグロもひゅうが井もモイカも河津桜も扇子踊りも堪能させてもらいました。津久見は「笑顔の子どもを育む地域」となる最短距離にいる市町村のひとつと思っています。期待してて良いですよ。埼玉から津久見を見させてもらいます。ありがとうございました。

